

平成22年9月14日

株式会社アイ・ティ・イノベーション主催



平成22年8月31日、東京品川の東京
コンファレンスセンターにて、18社
28名のエグゼクティブにご参加いただき、
第1回ITエグゼクティブフォー
ラムを開催いたしました。

フォーラムは主催者である株式会社アイ・ティ・イノベーション林衛による「BABOK®
で世界を変えよう！！」と題する講演に始まり、株式会社DPSのエグゼクティブコンサル
タントである近藤史人氏による「超上流の成功要因(PM+BAトレンド、ツール)と近
未来のIT基盤」と題する講演があり、その後活発な討議が行われました。

懇親会ではあちこちで議論の輪が広がり、楽しく有益な懇親の場となりました。



第1回を振り返って～寺井主査

ITエグゼクティブ・フォーラムの第一回が8月31日無事スタートした。

ITの専門家ではない私が、このような会の主査をつとめさせていただくことになって
心配していたのだが、率直なご意見やご質問が交わされて楽しいスタートができた。

今回の林社長の報告では、「超上流工程への取り組みが重要になっている」との指摘があった。

各々の企業には、創業の理念がありそれにそって企業戦略が立てられる。

情報システムを構築する場合も、システムの技術的な面だけに注目したり、部門の担当者の意向にだけ沿うだけ
では十分とは言えない。

企業のトップが掲げる理念と戦略、そしてこれを実現するために目指す事業の構造を見つめることができれば、
プロジェクトの進行も大きくはずれることはないはずだ。

林社長が提示されたように「リーダーが正しい生き方、考え方(哲学)」を持ち、企業理念を軸として事業とプロジェ
クトが推進された場合にはすばらしい成果が生まれる。

近藤史人氏の報告では、日本企業の情報システムは部門の合理化ツールに留まっている比率が多いとのことである。

歴史を振り返ってみれば、日本の情報システムの導入は、ある程度大きい企業の、ある部門の業務プロセスの
自動化から始まったため当然のことだろう。

しかし、今や技術が進み、企業の本来目指すべきビジネスモデル実現のためのシステム構築も不可能ではな
くはない。

近藤さんが紹介されたシミュレーションは、事業の全プロセスの骨格を見直すモデルとして使えば大きな効果
があると感じた。

説明であったように、プロダクトアウト型の企業構造を目指す、販売や生産負荷の変動が大きくなってくが、
サービス型の企業構造を目指せば負荷は安定するなどという現象も見えてくる。

多くの大企業が創業した戦後からすでに50年以上が経過して、大企業の企業のトップマネジメントもある領域の
現場で育ってきたサラリーマン出身者が増え、全体プロセスを体感として把握できる人材は少ない。

一方で、ITへの投資余力は多くない。

各社とも、どの領域から見直してIT投資をすれば最も効果的であり、次世代に向けてのイノベーションにつながるのか、悩みは大きいであろう。

このため、企業のトップマネジメントが事業モデルの根本的な議論をする場面で、このようなシミュレーターを使って全体を見られれば、全社的な意思統一も不可能ではなくなる。

これから、ITのプロジェクトリーダーも、素材メーカー、協力企業、さらに製造・技術開発はもちろん、販売店、そして製品使用後の回収までの、一貫したバリューチェーンのあるべき姿をモデルとして提示し、顧客企業の目指すところを共に検討する力を持ちたい。

企業家にとっては、時代に適合した考え方を持って新たなイノベーションに挑戦することは必須の役割である。そして、プロジェクトマネージャーには企業理念を理解できる哲学を持ちつつ、専門技術を高めることが強く求められる。以上の観点から、お二人の報告はエグゼクティブフォーラム第一回にふさわしく、心強く感じた次第である。



上田@アネゴ通信～上田副主査

和やかでありながら、真摯な皆さんの学ぶ姿勢に刺激をいただいたスタートとなりました。BAの講義では活発な質問が飛ぶ一方で、お酒が入るとゴルフの話題や趣味の話題が多く、エグゼクティブの皆さんのバランスのよさにも多くを学びました。ご一緒させていただいたみなさま、来月も楽しみにしております。



原口@ビジョン通信～原口副主査

多士済済!! これ程多くの人にお会いできる機会を得、今後の情報交換・交流に大いに期待してワクワクしております。先般(第一回)の交流で名刺交換できた人が10名の方でした。これから全ての方と交換し、更に日頃の活躍や抱えている問題意識など多くの刺激を受けたいと心に期している所です。

事務局より

多くのエグゼクティブの皆様をお呼びして、恙無く運営できるのか、満足いただける内容を提供できるのか、いろいろと心配をしながら準備を進めてまいりました。今回、至らない点もあったかと思いますが、皆様のご協力のもと、まずはなんとか第1回を終了することができ、事務局一同ホッとしております。

今後も、価値のある内容を提供できるよう、また新しい出会いや新しいビジネスにつながるようなフォーラムとなるよう頑張りたいと思いますので、ご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。